

## 4. 施設規模の検討

### 4-1. 機能配置の検討

現斎苑の機能配置は建物中央の玄関ホールを挟んで左手に待合機能、右手に火葬機能を配置し、各機能を直線的に接続している。

新斎苑の機能配置についても、両側に待合部門、火葬部門を振り分け、中央にエントランス、管理部門を設け、各部門を直線的に接続することにより、管理部門付近から施設全体を容易に把握できる配置とする。

通夜および葬儀といった式場機能については、各地域の斎場で実施するという当該地域の葬送習慣に則ることとし、新斎苑で機能を盛り込むことはしないものとする。

図4-1. 現況航空写真



## 4-2. 施設規模の検討

施設規模、床面積については、個別に必要機能として整理した各室面積を積み上げると共に、「火葬場の建設・維持マニュアル」における火葬炉基数別の建築物面積試算（火葬炉：4基）の他、道内他物件事例の規模を参考に検討した。

表4-1. 施設規模の検討

|      | 既存                 | 計画                   |
|------|--------------------|----------------------|
| 火葬部門 | ≒250m <sup>2</sup> | ≒500m <sup>2</sup>   |
| 待合部門 | ≒230m <sup>2</sup> | ≒600m <sup>2</sup>   |
| 管理部門 | ≒120m <sup>2</sup> | ≒300m <sup>2</sup>   |
| 合計   | ≒600m <sup>2</sup> | ≒1,400m <sup>2</sup> |

## 4-3. 主要施設規模の検討

### 4-3-1. 火葬部門

#### (1) 炉室

火葬炉（密閉型・セラミック炉）の1基当りの大きさは幅≒2.0m、奥行≒7.0mとなる。

4基の火葬炉を納める炉室の規模については、炉周囲の作業スペースとして約2.0mの余裕幅を考慮し、約162.0m<sup>2</sup>とする。

$$\text{幅} : 2.0\text{m}(\text{炉幅}) \times 4(\text{基}) + 2.0\text{m}(\text{作業スペース}) \times 5(\text{箇所}) = 18.0\text{m}$$

$$\text{奥行} : 7.0\text{m}(\text{炉奥行}) \times 1(\text{基}) + 2.0\text{m}(\text{作業スペース}) \times 1(\text{箇所}) = 9.0\text{m}$$

※ 火葬炉の前面は炉前ホールに接するため作業スペースは不要

$$\text{面積} : 18.0\text{m} \times 9.0\text{m} = 162.0\text{m}^2$$

#### (2) 炉前ホール

現在の炉前ホールは、全4基の火葬炉に面した1室として構成されており、壁等の間仕切りがないため、会葬者が告別、収骨を行っている時は、次の会葬者はホールを利用できず、長時間の待ち時間が発生してしまうといった問題があった。

新斎苑の炉前ホールについては、このような状況を回避できるように、間仕切りを設け、同時に2組の告別、収骨を行えるようにする。

炉前ホールの全体幅は隣接して配置する炉室と同じ18.0mとし、壁位置を合わせることで平面配置を単純化する。

間仕切り壁の位置は幅18.0mの中心とし、1室当りの幅を9.0mとする。奥行についても9.0mとし、視覚的にも整然とした空間とすることで、会葬者の方々が落ち着いた雰囲気の中で参列できるものとする。

また、室内には外部への開口を設け、自然光を取り入れる設計とするとともに、壁際にはベンチ等を配置し、高齢者、障害者等に配慮する。

幅（1室当り）：9.0m

奥行（1室当り）：9.0m

※ 奥行9.0mのうち、5.0mを祭壇スペース等と想定し、残りの幅9.0m奥行4.0mのスペースで約40人程度の会葬者を比較的余裕を持って収容可能( $36.0\text{m}^2 \div 40\text{人} = 0.9\text{m}^2/\text{人}$ )

表4-2. 火葬部門主要室面積

|       | 既存                 | 計画                 |
|-------|--------------------|--------------------|
| 炉室    | ≒90m <sup>2</sup>  | ≒160m <sup>2</sup> |
| 炉前ホール | ≒110m <sup>2</sup> | ≒160m <sup>2</sup> |

### (3) 火葬炉機械室

集じん装置、排気筒、ダクト等の火葬炉運転設備については、給排気等を効率良くコントロールできる火葬炉直上（2階）に設ける。

### (4) その他付帯施設

#### ・ 残灰、飛灰処理室

燃焼の際に発生する残骨灰と混合灰を各炉から分離、収集するための専用の機械を設置する部屋を設置する。

#### ・ 制御室

火葬炉システムの運転に対し、制御並びに異常や故障の有無を常時監視する専用の部屋を設ける。

#### ・ 自家発電機室

災害等による電源喪失時においても、一定期間は火葬が行えるように、自家発電機を設ける。

#### ・ 機械室

その他必要に応じて燃料ポンプ等の機器を収容する部屋を設ける。

## 4-3-2. 待合部門

### (1) 待合個室

同一時間帯での稼働炉数に対応することを考慮し、4室とする。（「火葬場の建設・維持マニュアル」より）

1件当りの会葬者は平均で20人に対し、最大で40人程度と比較的余裕のある中で想定した。また、1人当りの占有面積を1.3m<sup>2</sup>～1.5m<sup>2</sup>と設定（「火葬場の建設・維持マニュアル」より）し、1室当りの面積を約60m<sup>2</sup>とする。

室内は、休憩や食事用の一般的なテーブル、椅子席の他に、履物を脱いでくつろぐことのできる、畳を敷いた小上りスペースを設ける。

想定人数を超えた会葬の際には、隣接した2室の間仕切壁を開放して、大きな1室として利用できるようにする。

## (2) 待合ホール

各々の待合個室の前面に共通の待合ホールを設け、様々な関係の会葬者でも気兼ねなく快適に待機できるようにする。

待合個室1室当りの間口を概ね8.0mと想定し、4室分の間口(32.0m)に、現斎苑と同等のホール幅(5.0m)と余裕を持った通路幅(2.0m)を確保することとし、約220.0m<sup>2</sup>とする

ホール内は、一般的なテーブル、ベンチの他に、外の風景を眺められる大きめの窓、地域の文献、絵本等を揃えた図書コーナー等のアメニティ設備を充実させる。

表4-3. 待合部門主要室面積

|       | 既存                 | 計画                 |
|-------|--------------------|--------------------|
| 待合個室  | ≒140m <sup>2</sup> | ≒240m <sup>2</sup> |
| 待合ホール | ≒75m <sup>2</sup>  | ≒220m <sup>2</sup> |

## (3) トイレ

トイレにおける便器の設置数は、他事例等を参考として下表の通り設置する。

また、高齢者、妊婦、子供連れ、オストメイト等に対応した多目的トイレを設ける。

表4-4. トイレ各便器設置数

|        | 既存      | 計画      |
|--------|---------|---------|
| 男子トイレ  | 小：2、大：1 | 小：3、大：2 |
| 女子トイレ  | 2       | 4       |
| 多目的トイレ | —       | 1       |

## (4) その他付帯施設

### ・給湯室

会葬者へのお茶等の飲み物の提供、簡単な調理等の作業を行えるように、流し台、コンロ、食器棚等を備えた給湯室を設ける。

### ・休憩室

葬儀関係者（僧侶、運転手、仕出し屋等）の待機、休憩場所として、休憩室を設ける。

### ・授乳室

近年、授乳室は、駅や空港等の公共施設やショッピングセンター等の民間施設においても幅広く設置されている。人に優しい空間として、授乳中にプライバシーの確保ができるよう、専用の授乳室を設ける。

### ・キッズルーム

就学前の児童を連れた会葬者が、周囲に気兼ねなく待機できるように、玩具、遊具等を備えたキッズルームを設ける。

### ・喫煙コーナー

現在、施設内での喫煙は原則禁止されており、喫煙については出入口付近外部に設置され

た灰皿を利用することになっているが、明確な分煙とはなっていないため、屋内の壁、天井で囲まれ、灰皿や空気清浄機を備えた喫煙室を設ける。

・自動販売機コーナー

現在、基本的な飲食物の提供は外部からの仕出しのみとなっていることから、その他の飲み物の提供のために自動販売機コーナーを設ける。

表4-5. 待合部門その他施設面積

|           | 既存               | 計画                |
|-----------|------------------|-------------------|
| 給湯室       | ≒8m <sup>2</sup> | ≒16m <sup>2</sup> |
| 休憩室       | —                | ≒15m <sup>2</sup> |
| 授乳室       | —                | ≒5m <sup>2</sup>  |
| キッズルーム    | —                | ≒15m <sup>2</sup> |
| 喫煙コーナー    | (屋外)             | ≒10m <sup>2</sup> |
| 自動販売機コーナー | (ホール内)           | ≒4m <sup>2</sup>  |

4-3-3. 管理部門

(1) 事務室

葬儀関係者（僧侶、運転手、仕出し屋等）や会葬者の受付、館内放送設備、火災報知設備、防犯設備等の維持管理に関わる業務を行うための事務室を設ける。

計画の施設規模や機能等から、2～3名程度の職員で管理することを想定し、1人当りの事務室面積の諸元(8～12m<sup>2</sup>)より、約25.0m<sup>2</sup>とする。

(2) エントランスホール

会葬者が施設に入って、待合ホール、炉前ホールに入る前に、一旦全ての会葬者を収容できる、比較的大きめのエントランスホールを設ける。

また、室内にはトップライト（天窗）等を設けることにより、自然光を取り入れた落ち着いた環境とする。

奥行は、棺運搬台車が余裕を持って回転できる4.0m以上を確保し、幅は、概ね40人の会葬者の滞留と同時に棺運搬台車の通行を行うため、約18.0mと設定し、約72.0m<sup>2</sup>とする。

(3) 風除室

外気の急激な流入、風の吹きつけを緩和させるために、施設出入口には、風除室を設ける。

会葬者と棺運搬は同時に行うこととなるため、会葬者と棺運搬台車の動線が交錯しないように、会葬者用、棺運搬台車用の2箇所の風除室を設ける。

棺運搬台車用の出入口付近には、霊柩車からの棺の受入を円滑に行うために、棺運搬台車の待機スペースを設ける。

(4) キャノピー

施設出入口前には、棺の受入時、会葬者のバスへの乗降時に雨や雪に降られるのを防止するため、雨除けとなるキャノピーを設ける。

表4-6. 管理部門主要室面積

|           | 既存                  | 計画                |
|-----------|---------------------|-------------------|
| 事務室       | ≒12m <sup>2</sup>   | ≒25m <sup>2</sup> |
| エントランスホール | ≒22.5m <sup>2</sup> | ≒72m <sup>2</sup> |
| 風除室       | —                   | ≒20m <sup>2</sup> |